

GU'DAY

IS NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION GUNMA UNIVERSITY'S MAGAZINE THAT PROVIDES RECENT NEWS



群馬大学頑張ってます！



contents

P2 NEWS 学生の活躍 / 研究成果など

P4 イベント情報 2019年8月～12月開催予定のイベント / 公開講座

P8 研究紹介 『ABO式血液型の謎』大学院医学系研究科 准教授 佐野利恵先生

P12 イマドキ授業 社会情報学プロジェクトA-II 社会情報学部 教授 西村淑子先生

P16 輝く群大生 国際センター公認国際交流団体「Le Pont」

P20 キャンパス紹介 荒牧キャンパス

P22 群馬大学基金だより ご寄附をいただいた企業様からのメッセージ



群大最新ニュース

※ 2019 年度に群馬大学がリリースした一部のニュースを取り上げたものです。

※ 他のニュースやニュースの詳細などは群馬大学ホームページ（トップ「大学からのお知らせ」）をご覧ください。▶▶▶▶▶▶



日付	所属または情報の種類	ニュース
4月1日	医学部附属病院	医学部附属病院が、2019年4月1日付けで厚生労働大臣より特定機能病院の名称使用に係る承認を受ける
4月1日	男女共同参画推進室	2019年3月13日、群馬大学は「群馬大学 性の多様性（LGBT/ SOGI）に関する基本的考え」及び対応ガイドラインを策定〔画像1〕
4月5日	行事	2019年4月5日、平成31年度群馬大学入学式を ALSOK ぐんまアリーナで挙行し、1,702名（学部1,219名、大学院470名、専攻科13名）の新入生が入学〔画像2〕
4月8日	産学連携	サンデンホールディングス株式会社と群馬大学は、2019年4月8日、産学連携協定に関わる協定を締結〔画像3〕
4月9日	医学系研究科	大学院医学系研究科の下川周子助教らの研究グループが、国立感染症研究所の久枝一部長らとの共同研究により、寄生虫によるダイエット効果を世界で初めて科学的に証明（米国の科学雑誌『Infection and Immunity』に掲載）
4月10日	保健学研究科	大学院保健学研究科の大西浩史教授、橋本美穂研究員らの研究グループが、神戸大学、福井大学との共同研究により、傷ついた脳の修復作用にブレーキをかける分子を発見（イギリスの生物学総合誌である国際オープンアクセスジャーナル『eLIFE』に掲載）
5月23日	理工学府	分子科学部門の覚知亮平助教と国立研究開発法人量子科学技術開発機構が、完全バイオマス由来の有機ハイブリッド材料の合成に成功（アメリカ化学会（ACS）が出版する『ACS Sustainable Chemistry & Engineering』に研究論文として公刊されるとともに、掲載当月の評価の高い研究内容として Supplementary Journal Cover に採択）
5月26日	国際センター	2019年5月26日から文部科学省「留学生就職促進プログラム」における「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクトを開始 日本貿易振興機構（ジェトロ）群馬貿易情報センターや群馬県酒造組合などから講師を招き、「卒業後も群馬で暮らし働く選択肢を考えるキャリア教育」を目的とした授業を6月16日まで実施
6月4日	教育学部	教育学部の海外研修「海外日本人学校でのインターンシップ」が、特色あるカリキュラム、養成環境の事例として、文部科学省からグッドプラクティスに選定される
6月10日	医学系研究科	医学系研究科附属教育研究支援センターの定方哲史准教授らが、体が震える原因を解明（米神経科学会誌『Journal of Neuroscience』に掲載）
6月13日	理工学府	電子情報部門の花泉修教授、加田渉助教らと、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子ビーム科学部門高崎量子応用研究所、早稲田大学理工学術院、筑波大学、及び国立研究開発法人物質・材料研究機構機能性材料研究拠点との研究の結果、ダイヤモンド中に室温で動作する NV センターの3量子ビット化を実現—有機化合物イオンビームにより量子コンピュータに不可欠な多量子ビット形成技術を開発—（『Nature Communications』のオンライン版に掲載）
6月19日	理工学府	分子科学部門の武田茂樹教授が、大阪大学の山下栄樹准教授やトロント大学の Alan Davidson 教授と協力して、ウイルスがバクテリアを殺すきっかけを立体構造から解明（『Nature Microbiology』に掲載）

話してみない？

にじいろラインメール
niji@gunma-u.ac.jp
知事や県議員、市町村長や市議、県議のみなさんへ「群馬大学からのお知らせ」が送られます。
大学のすべての方にメールで送ります。

1 相談窓口のにじいろラインメール



2 入学式



3 調印式

日付	所属または情報の種類	ニュース
7月1日	医学部附属病院	医学部附属病院が、2019年7月1日付けで厚生労働大臣からがん診療連携拠点病院の指定を受ける
7月2日	社会情報学部	社会情報学部の教員らが人工知能学会「現場イノベーション賞（金賞）」を受賞
7月11日	医学系研究科	医学系研究科救急医学分野の青木誠助教ら研究グループが、交通事故による外傷性心肺停止の治療にアドレナリン投与は生存率改善として不十分であることを検証（科学誌『Scientific Reports』オンライン版へ掲載）
7月20日	社会情報学部	2019年7月20日、社会情報学部の選抜型コース「データ解析プログラム」の3年生と、社会情報学部の社会人向けプログラム「社会人のためのデータ解析」で1年間学んだ社会人が共同で取り組んだプロジェクトの成果を発表

群大生が活躍しています！

日付	所属	ニュース
5月13日	理工学部	理工学部在学学生を中心とした iGEM 群馬大学チームが、2019年10月にアメリカ・ボストンで開催される「iGEM2019」に出場するための資金獲得を目的としたクラウドファンディングを実施中 ※ iGEM (International Genetically Engineered Machine Competition) とは、世界規模で行われる学生向けの合成生物学大会のこと [画像A]
5月28日	教育学部	教育学部の紫垣さん、藤井さん、村上さん（いずれも4年生）が2018年12月にクックパッド本社で開催された「クリエイティブ・クッキング・バトル」に参加し2位入賞 ※ クリエイティブ・クッキング・バトルとは、“アリモノからおいしい料理を作ること、生活の中で最もクリエイティブな行為である”を合言葉に、残り食材を工夫して自由に料理する能力に焦点を当てた、エンターテインメント型フードロス解消イベント [画像B]
7月4日	理工学部	2019年7月4日、群馬大学学生フォーミュラチーム（GUFT）の磯部さん、青木さん（いずれも機械知能システム理工学科4年）が、日本自動車会館（東京都港区）で開催された「学生フォーミュラ日本大会2019」関東地区報道関係者向け発表会（公益社団法人自動車技術会主催）に参加し、本学チームの活動などについてプレゼンテーションを行った [画像C]



A 意気込みを語る代表の北さん



B メンバーの集合写真



C プレゼンテーションの様子

次世代モビリティ社会実装研究センター CRANTS ニュース

日付	情報の種類	ニュース
4月8日	実証実験	名古屋鉄道株式会社及び名鉄バス株式会社と群馬大学が、2019年4月8日から12日まで自動運転バスの実証実験を愛知県尾張旭市及び長久手市において実施
4月26日	共同研究	相鉄グループの相鉄バス株式会社と群馬大学が、バスの自動運転に必要なシステムの開発、同システムを活用した実証実験の実施、自動運転による輸送サービスの構築などに係る共同研究契約を締結
5月25日	実証実験	株式会社ミツバ及びミツバグループ、桐生市、群馬大学は、桐生市における地域の移動課題の解決に向けたモビリティネットワーク構築のための社会実装研究に三者で取り組む一環として、2019年5月25日及び26日、複数の種類の自動運転車両を同時に用いた公道実証実験を実施
6月28日	実証実験	桑名市と群馬大学が共同研究契約に基づき、2019年6月28日から30日まで、桑名市にてポントチョバスを利用した自動運転実証実験を実施
7月1日	研究成果	新明和工業株式会社と群馬大学は、群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センター内に設置した検証用機械式駐車設備において、業界で初めて自動運転自動車の実証駐車実験（機械式駐車場への自動入庫）に成功

EVENT INFORMATION

イベント

こども体験教室「群馬ちびっこ大学」

開催日 8月10日(土)～13日(火)
時 間 10:00～17:00 (入場は16:30まで)
会 場 ヤマダ電機 LABI 1
 LIFE SELECT 高崎 LABI GATE
 (高崎市栄町1-1)
対 象 小学生、中学生とその保護者、
 教員、一般の方々
問合せ 研究推進部産学連携推進課
 産学・地域連携係
☎ 027-220-7544



詳細はこちら▶



イベント

群馬大学オープンキャンパス GU'DAY 2019

開催日 8月16日(金)
時 間 8:45 受付、各行事開始
会 場 荒牧キャンパス
 (前橋市荒牧町四丁目2番地)
対 象 高校生、中学生、保護者等
問合せ 学務部学生受入課
☎ 027-220-7154



※ 参加には事前申込が
必要です

詳細はこちら▶



イベント

重粒子線がん治療施設見学会

一般向けに施設内を公開し、機器等の説明及び、治療方法などを紹介します。当日は午前・午後の全2回、説明会(講演会)も開催します。

開催日 10月5日(土)
時 間 10:00～16:00
会 場 重粒子線医学センター
 (前橋市昭和町3-39-22)
問合せ 昭和地区事務部総務課広報係
☎ 027-220-7895



イベント

メカメカフェア2019

(※ 理工学部後援)

科学や機械のおもしろさに触れる
ことができるイベントです。

開催日 9月28日(土)
時 間 10:00～16:00
会 場 スマーク伊勢崎
 (伊勢崎市西小保方町368)
問合せ 大学院理工学府知能機械創製部門
☎ 0277-30-1530

イベント

クラシックカー フェスティバル in 桐生

開催日 11月3日(日・祝)
時 間 10:00～15:00
会 場 桐生キャンパス
 (桐生市天神町1-5-1)
問合せ クラシックカーフェスティバル
 in 桐生実行委員会事務局
☎ 0277-45-1201



詳細はこちら▶

イベント

企画展 「マンガで学ぶ医療」

医学図書館所蔵の医療マ
ンガコレクションの展示

開催日 6月11日(火)～9月30日(月)
時 間 医学図書館の開館時間内
 ※ 詳しくは、HPをご覧ください
会 場 医学図書館1階ロビー (前橋市昭和町3-39-22)
問合せ 総合情報メディアセンター課医学情報係
☎ 027-220-7883



詳細はこちら▶

イベント

群馬大学地域貢献シンポジウム 「高齢化社会の地域交通システム」

群馬大学地域貢献シンポジウム
講演会とパネルディスカッションを
行います。

開催日 10月20日(日)
会 場 桐生市民文化会館シルクホール
 (桐生市織姫町2-5)
問合せ 理工学部庶務係
☎ 0277-30-1895

学園祭では学生による屋台の出店、音楽の演奏、作品の展示等を行っています。

学園祭

群桐祭

群馬大学桐生キャンパスの学園祭

開催日 10月19日(土)、20日(日)

時 間 19日… 9:00～17:00

20日… 9:00～16:00

会 場 桐生キャンパス
(桐生市天神町1-5-1)

問合せ 理工学部学生支援係
☎ 0277-30-1042



学園祭

医学祭

群馬大学昭和キャンパスの学園祭 (2年に1度開催)

開催日 10月26日(土)、27日(日)

時 間 26日…10:00～18:00

27日…10:00～17:00

会 場 昭和キャンパス
(前橋市昭和町3-39-22)

問合せ 昭和地区事務部学務課
学事・学生支援係
☎ 027-220-7796

学園祭

荒牧祭

「疾走 ～創りだせ 未来の令和を～」

群馬大学荒牧キャンパスの学園祭

開催日 11月23日(土・祝)、24日(日)

時 間 10:00～17:30

会 場 荒牧キャンパス
(前橋市荒牧町四丁目2番地)

問合せ 学務部学生支援課学生支援係
☎ 027-220-7138



詳細はこちら▶



教育学部

澤田まゆみ ピアノリサイタル

(※ 群馬大学教員委嘱作品の初演あり)

開催日 10月18日(金)

時 間 開場 18:30 開演 19:00

会 場 高崎シティギャラリー コアホール
(高崎市高松町35-1)

料 金 4,000円(学生割引有り)

定 員 324名(車椅子2席含む)

問合せ 教育学部 西田研究室

✉ naporitanya@gmail.com



チラシはこちら▶



教育学部

夢うつつ恋物語 ～今も昔も変わらぬロマンス～

群馬大学教育学研究科(音楽教育分野) 長期研修院の成果発表としての演奏会

開催日 12月7日(土)

時 間 開場 13:30 開演 14:00

会 場 高崎シティギャラリー コアホール
(高崎市高松町35-1)

料 金 1,500円

※前売券販売あり

(当日、会場でもチケット購入できます)

定 員 324名(車椅子2席含む)

問合せ 教育学部 西田研究室

✉ alex.opera2018@gmail.com



チラシはこちら▶



教育学部

群馬大学メサイア管弦楽団・合唱団 第47回定期演奏会

開催日 12月22日(日)

時 間 開場 12:30 開演 13:00

会 場 高崎シティギャラリー コアホール
(高崎市高松町35-1)

料 金 無料

定 員 324名(車椅子2席含む)

問合せ gunma.messiah@gmail.com

Twitter ▶ @Gunma_Messiah

Instagram ▶ [gunma.messiah](https://www.instagram.com/gunma.messiah)

詳細はこちら▶



教育学部 附属学校

附属幼稚園 幼稚園体験「あずさの日」

幼稚園での遊びを楽しむ、幼稚園体験会

開催日 9月2日(月)、30日(月)
時 間 13:30～14:30
会 場 教育学部附属幼稚園
 (前橋市若宮町二丁目5-3)
対 象 平成27年4月2日から
 平成29年4月1日に生まれた
 お子様と保護者20組
料 金 親子1組150円
定 員 20組／各日
問合せ 教育学部附属幼稚園
 ☎ 027-231-3170

※ 参加には事前申込が必要
 必要です

詳細はこちら▶



教育学部 附属学校

附属小学校 第3回夏季教育講演会

教育学部附属小学校主催の新学習
 指導要領に関する教育講演会

開催日 8月20日(火)
時 間 13:30～15:30
会 場 群馬大学大会館ミューズホール
 (前橋市荒牧町四丁目2番地)
対 象 教育関係者等
定 員 150名
問合せ 教育学部附属小学校
 ☎ 027-231-5725

※ 参加には事前申込が必要
 必要です

詳細はこちら▶



教育学部 附属学校

附属中学校 公開研究会

「問題解決の過程」に焦点を当てた授業公開

開催日 10月10日(木)、11日(金)
時 間 8:30受付 9:00～16:50
会 場 附属中学校
 (前橋市上沖町612番地)
料 金 1,000円
問合せ 教育学部附属中学校
 ☎ 027-231-4651

※ 参加には事前申込が必要
 必要です

詳細はこちら▶



中央図書館 (荒牧キャンパス)

トークショー「太田新田に
 おける群馬大学の古墳調査」

柿沼恵介氏(太田市文化財審議委員)、
 右島和夫氏(群馬県立歴史博物館館長)によるトークショー

開催日 11月24日(日)
時 間 13:30～15:00
会 場 中央図書館1階ラーニング
 コモンズ「アゴラ」
 (前橋市荒牧町四丁目2番地)

中央図書館 (荒牧キャンパス)

群馬県の古墳発掘の父
 尾崎喜左雄博士展 part4
 展示解説

深澤敦仁氏(群馬県立歴史博物館学
 芸係長)による展示資料の解説

開催日 11月24日(日)、12月14日(土)
時 間 ① 11:00～11:30
 ② 12:30～13:00
会 場 中央図書館2階学習室
 (前橋市荒牧町四丁目2番地)

中央図書館 (荒牧キャンパス)

星野富弘作品展

本学OBの星野富弘氏から附属病院
 に寄贈された詩画作品のうち11点を
 館内で展示

開催日 9月中旬～10月下旬
時 間 中央図書館の開館時間内
 ※ 詳しくは、HPをご覧ください
会 場 中央図書館1階ギャラリー
 (前橋市荒牧町四丁目2番地)

中央図書館 (荒牧キャンパス)

教員展示「HELLO! Data
 Science World!」

数理データ科学教育研究センター吉
 良元助教監修による、センター紹介
 ポスターや関連資料を展示

開催日 7月1日(月)～9月30日(月)
時 間 中央図書館の開館時間内
 ※ 詳しくは、HPをご覧ください
会 場 中央図書館1階教員展示コーナー
 (前橋市荒牧町四丁目2番地)

中央図書館 (荒牧キャンパス)

群馬県の古墳発掘の父
 尾崎喜左雄博士展 part4

～群馬県内の古墳発掘・調査の歴史を識る～

名誉教授である尾崎喜左雄博士が発
 掘調査した古墳の考古遺物・調査記
 録等の展示

開催日 11月5日(火)～12月25日(水)
時 間 中央図書館開館日の
 9:00～17:00
会 場 中央図書館2階学習室
 (前橋市荒牧町四丁目2番地)

中央図書館開催の各イベントの詳細はこちら

中央図書館 問合せ

総合情報メディアセンター 中央図書館

☎ 027-220-7185



令和元年度 群馬大学公開講座一覧

※ 各講座の詳細及び最新情報はHPでご確認ください▶▶▶ HP URL <https://koukai-kouza.opric.gunma-u.ac.jp/>



▶ 一般の方対象講座（公開講座Aコース・開放講座Aコース）

講座名	開催日	会場	対象者	募集人数	受講料	申込期限
トークカフェ atPLUS+ アンカー サイエンスカフェ in 桐生 ③ 【偏った光で見える世界】	8/10 (土)	PLUS+ アンカー	一般の方	20 人	無料※	—
トークカフェ atPLUS+ アンカー アートカフェ in 桐生 ③ 【クラシックカーフェスティバル in 桐生】	9/14 (土)	PLUS+ アンカー	一般の方	20 人	無料※	—
データベースと SQL (1)	9/29 (日)	社会情報学部棟 101 教室 (荒牧キャンパス)	一般の方	12 人	6,200 円	9/9 (月)
『集学的選択と社会的厚生』を読む 1	9/30 (月)～10/28 (月) (午前のみ)	東京サテライトオフィス 303 号室	一般の方	5 人	6,200 円	9/10 (火)
『集学的選択と社会的厚生』を読む 1	9/30 (月)～10/28 (月) (午後のみ)	東京サテライトオフィス 303 号室	一般の方	5 人	6,200 円	9/10 (火)
データベースと SQL (2)	10/6 (日)	社会情報学部棟 101 教室 (荒牧キャンパス)	一般の方	12 人	6,200 円	9/16 (月・祝)
トークカフェ atPLUS+ アンカー サイエンスカフェ in 桐生 ④ 【ゲル～生きものが増える環境】	10/12 (土)	PLUS+ アンカー	一般の方	20 人	無料※	—
社会起業家特論 (先端応用情報学特講 A・B)	10/24 (木)～12/5 (木)	社会情報学部棟 106 教室 サテライト高崎	一般の方	26 人	9,200 円	10/4 (金)
『集学的選択と社会的厚生』を読む 2	11/4 (月)～11/25 (月) (午前のみ)	東京サテライトオフィス 303 号室	一般の方	5 人	6,200 円	10/15 (火)
『集学的選択と社会的厚生』を読む 2	11/4 (月)～11/25 (月) (午後のみ)	東京サテライトオフィス 303 号室	一般の方	5 人	6,200 円	10/15 (火)
トークカフェ atPLUS+ アンカー アートカフェ in 桐生 ④ 【公共交通から生活交通～鉄道応援団の15年】	11/9 (土)	PLUS+ アンカー	一般の方	20 人	無料※	—
R で学ぶ統計学の基礎	11/9 (土)・30 (土)	社会情報学部棟 101 教室 (荒牧キャンパス)	一般の方	10 人	7,200 円	10/20 (日)
地域の伝統文化に親しもう 人形芝居のたのしみ	11/10 (日)	ミュージアムホール (荒牧キャンパス)	小中高大学生 / 一般の方	100 人	無料	10/22 (火・祝)
映画『ここに泉あり』(1955)の時代 【映像作品と地域活性化】を考える	11/23 (土) (荒牧祭期間中)	社会情報学部棟 611 教室 (荒牧キャンパス)	一般の方	20 人	無料	11/3 (日)
群馬県立ぐんま天文台連携講座	12/8 (日)・15 (日)・ 22 (日) (いずれか1日)	総合研究棟 402 号室 (桐生キャンパス)	一般の方	250 人	無料	未定
トークカフェ atPLUS+ アンカー サイエンスカフェ in 桐生 ⑤ 【ビッグデータから何が出来るようになるのか?】	12/14 (土)	PLUS+ アンカー	一般の方	20 人	無料※	—
トークカフェ atPLUS+ アンカー アートカフェ in 桐生 ⑤ 【古民家の維持と再生】	2020/1/11 (土)	PLUS+ アンカー	一般の方	20 人	無料※	—
トークカフェ atPLUS+ アンカー サイエンスカフェ in 桐生 ⑥ 【ものづくりにおけるIoTの活用】	2020/2/8 (土)	PLUS+ アンカー	一般の方	20 人	無料※	—
R による統計分析入門	2020/2/15 (土)・29 (土)	社会情報学部棟 101 教室	一般の方	10 人	7,200 円	1/26 (日)

★ PLUS+ アンカー（カフェ）所在地：桐生市本町六丁目382

※ トークカフェの参加費1,000 円（ドリンク代を含む）が必要（当日会場で支払い）。ただし、8/10(土)サイエンスカフェ in 桐生③については、1,500 円（ドリンク代・教材費を含む）が必要。

▶ 専門技術者等対象講座（公開講座Bコース・開放講座Bコース）

講座名	開催日	会場	対象者	募集人数	備考
高校生サイエンスインストラクター 育成プログラム ①	8/21 (水)～22 (木) 1 日間または 2 日間	理工学部 (桐生キャンパス)	高校生	25 人	受講料 3,000 円(1 日間) 6,000 円(2 日間)
高校生サイエンスインストラクター 育成プログラム ②	9/22 (日)～23 (月・祝) 1 日間または 2 日間	理工学部 (桐生キャンパス)	高校生	25 人	受講料 3,000 円(1 日間) 6,000 円(2 日間)
手話で学ぶろう者学 ～尊重の仲間とつながるために～	2020/2/15 (土)	教育学部 C 棟 204 教室	手話によるコミュニケーションが可能な人	—	申込期限 1/26 (日)

研究紹介

Thema

『ABO式血液型の謎』

群馬大学 大学院医学系研究科

法医学講座

准教授 佐野利恵 先生（医学博士）

Profile

群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程修了。
その後、群馬大学学術研究院講師（大学院医学系研究科主担当）を経て、
2017年8月より現職。

【研究分野】法医学、輸血学、DNA多型 【主な研究テーマ】法医遺伝学、
輸血学、ABO式血液型、法医病理学、死後画像検査



ABO式血液型は輸血医療になくてはならない検査で、法医学でも使われます。それは、「この血痕が誰に由来するものか」などといった個人識別のツールとして役立つからです。また、日本では、多くの人が自分の血液型を知っており、遺伝することもよく知られています。しかし、血液型の正体についてはよく知られていません。

01/ そもそもABO式血液型って何？

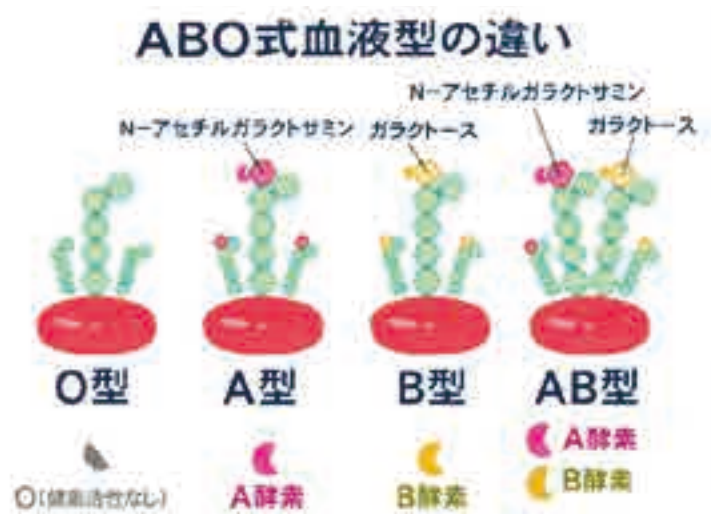
その正体は簡単にいうと、血液中の赤血球の表面にある、糖の連なりです。その構造の違いをA型、B型、O型と呼び分けています。もう一つ重要なポイントが、ABO式血液中の上澄み成分を「血漿」といいますが、各血液型にある「抗体」です。「抗体」は菌やウイルスなどの自分にとって異質なものに結合し排除する、体にとって大切な免疫の仕組みを担っています。人は、自分の持っていない血液型物質を異物と認識する「抗体」をもともと持っているため、違う血液型の血液を輸血すると、この「抗体」が作用し、赤血球を壊してしまうのです。このため、輸血には血液型を合わせて行うことが求められます。

ABO式血液型

A型	A型物質	B型物質	B型
	抗B抗体	抗A抗体	
AB型	A,B型物質	なし	O型
	抗体なし	抗A抗体 抗B抗体	

02 血液型の違いは、どうして起きる？

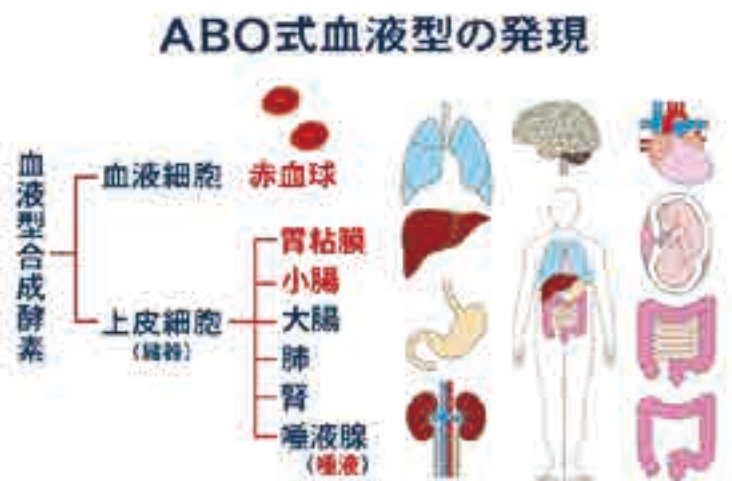
ABO式血液型が遺伝する、ということをご存知の方も多
いかと思います。血液型に関
する遺伝情報、すなわちABO
遺伝子が親から子に受け継が
れます。遺伝子、とは、簡単
にいうと細胞や体を形作る
様々なタンパク質の設計図の
ことです。そして、ABO遺伝
子は糖と糖をつなぎ合わせる
働きをもつ酵素の設計図です。
その結果できる酵素について



は、まず、血液型の土台となる糖の並びが、②フリップ中、緑色で示されています。A型ではA遺伝子から作られるA酵素によりN-アセチルガラクトサミンという糖が一つ新たに加わります。B型のひとがもつB遺伝子はA遺伝子の情報とごく一部が異なるため、B酵素は、働きが少し変わり、ガラクトースが加わります。その結果できあがったものをB型と呼んでいます。O遺伝子は遺伝子情報が一文字抜けただけで、糖をつなげる力のないタンパクができます。よって、新たに糖は加わりません。このように、持っている遺伝子情報の一部が個人間で異なっているため、A、B、O型の違いが作られます。考えようによっては、O型の細胞はA型、B型の細胞に比べて、糖をつなげる作業が一つ少ない分、ほんの少しだけ楽をしているのかもしれません。

03 赤血球以外の部位でも、ABO式血液型は現れます

ところで、血液型は赤血球
だけでなく、唾液、胃粘膜に
もあることから、これらを
使った血液型判定も行われま
す。一方、神経や筋肉には
ABO式血液型物質はありませ
ん。つまり、血液型物質は細
胞の種類によって、オンオフ
が調節されているという特徴
があります。このメカニズム
の秘密を私たちの研究室で明
らかにしています。

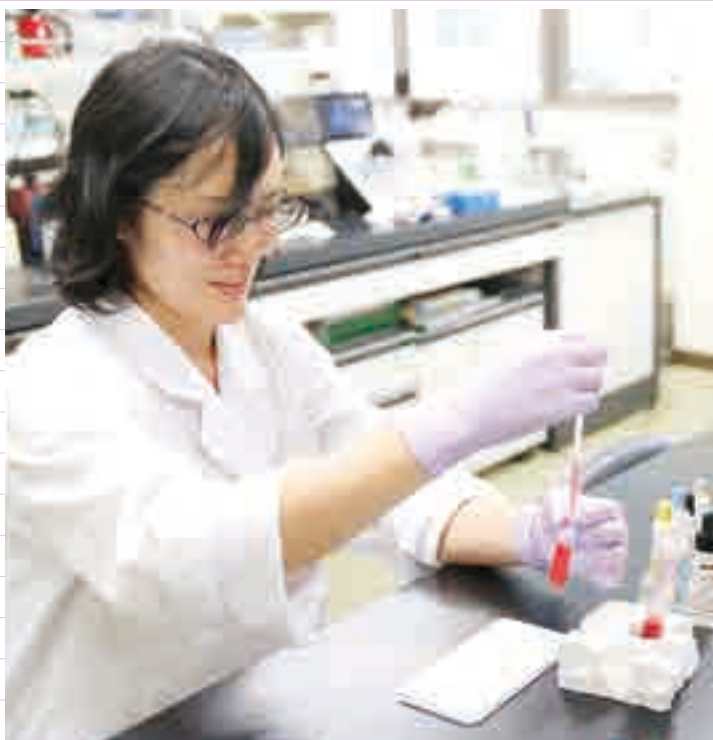


04 血液型によって性格などに差がでるとよく言われますが、関係はある？

確かに、血液型の研究をしていると、血液型と性格の関係について質問を受けることもあります。神経細胞にはABO式血液型がないことも含め、現状でその質問を肯定できるデータを持ち合わせていませんが、今後、血液型と性格についても私たちなりの切り口で調べてみたいと思っています。

一方で、興味深いことに、血液型と病気のなりやすさが関係するという報告が世界でなされていることです。たとえば、O型は、A、B、AB型に比べて心筋梗塞やエコノミークラス症候群などの病気になりにくいと言われています。その反面、O型の人は血がとまりにくい、ということです。また、癌と血液型の関連についても多数報告がありますし、癌などで細胞に何らかの異常が生じると、血液型物質の量が減り、血液型が変わったように見えるといった現象もあり、現在注目して研究を行っています。

ABO式血液型と病気との関係



カラフルな試験薬を使って、血液型を判定



血液型の判定方法を分かりやすく
レクチャーしてくださる佐野先生



試薬調査の様子

05 遺伝子検査ビジネス

最近テレビなどでは、遺伝子検査、という言葉を目にすることがあると思います。先ほどお話しした、血液型と病気の関係もそうですが、その他の様々な遺伝子について、個人間で異なる遺伝子情報と病気や体質との関係が明らかになっています。また、技術の発達により、迅速に安く遺伝子の情報を調べることが可能となっています。そのため、これを生かした遺伝子検査ビジネスが急増しています。このような遺伝子検査は、唾液や髪の毛を送るだけの手軽さから、人気を集めています。この得られた情報を生かして、予防医療やオーダーメイド医療が進むと期待されています。

ただ、検査の品質や精度が確保されるのかという点が懸念されていますし、個人の遺伝情報はまさにその人自身であることから、それらの情報が適切に保護される必要がありますので、今後、これらの問題点が解決されることを期待します。

ABO 式血液型は、私たちにとって身近な血液型であり、身近に「遺伝」を感じるものであると思います。血液型について、未だにわからないことも沢山あります。私たちの ABO 式血液型の研究が今後、幅広く医療に貢献出来ることを期待しています。

TOPICS

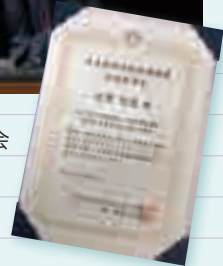
《 祝！日本医学会総会奨励賞を受賞 》

佐野利恵准教授は、今年「ABO 式血液型遺伝子の転写調節研究と血液型亜型の遺伝子解析」の研究について、日本医学会総会奨励賞(社会医学系)を受賞されました！

この賞は、医学上優れた業績を上げた若手研究者を表彰し、今後の医学会を活性化するために新しく設けられた賞で、選考方法は、日本医学会加盟の分科会もしくは日本医師会から各々 1～2 名の候補者が推薦され、生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系の 5 領域に分類の上、審査員による事前書類選考を経て、各領域から 3 名程度の奨励賞受賞者が選出されます。

写真は 2019 年 4 月 29 日、愛知県名古屋市で開催された授賞式(第 30 回日本医学会総会)の様子です。

今後も先生のさらなるご活躍を期待しております！



イマドキ!! 授業

学生広報大使企画

群大の特徴的な授業を紹介!

社会情報学
プロジェクトA-II
西村淑子先生



《ハンセン病について学び考える新授業》

社会情報学部では、2016年度にカリキュラムの再編が行われ、「ディレクション制」を導入しました。ディレクションごとに開講されている「プロジェクト科目」のうち、今回特集するのは、『公務と法律』を受講する学生向けの授業「プロジェクト科目A-II」です。私たちはこの授業を担当する西村淑子教授にお話を伺いました。

このコーナーの取材を担当した学生広報大使！

- (左) 社会情報学部社会情報学科 2年 佐藤 真衣さん [青森県出身]
(中) 社会情報学部社会情報学科 2年 釜崎 夏純さん [岩手県出身]
(右) 社会情報学部社会情報学科 3年 福井 健一郎さん [長野県出身]



《授業のきっかけは自身の体験から》

そもそもこの授業は熊本の水俣の人々との出会いが始まりだそうです。

西村先生 熊本は水俣病が発生した地域で私も熊本に何度も行って、勉強していました。その時に、「群馬にはハンセン病問題があるよね、群馬にいるなら群馬大学がやらなきゃダメじゃない！」と言われて始めたんです。地元根を張った教育や研究がすごく大事なだと水俣の人たちに教えてもらいました。広く勉強する必要もあるけれど、実際に何かを解決するためには自分たちの身近な問題を発見して直接向き合うことが大事だと教えてもらいました。

《授業の内容について》

先生の担当するこの「プロジェクト科目A-II」は、学生たちが草津へとフィールドワークに行き、^{くりうらくせんえん}栗生楽泉園などを回り、ハンセン病について学び考えるというものです。

先生によると、先生はこの授業より以前にゼミの学生と栗生楽泉園へ何度も向い、活動をしていたそうです。

西村先生 私の専門は行政法についてですが、行政法のテーマの一環として、ハンセン病の問題を取り上げてきました。群馬には草津に国立のハンセン病療養所があるということで、学生と地域の人がお互いに交流して学ぶことがとても大事だと思い、ゼミ生と一緒にハンセン病についての学会へお手伝いに行ったり、地域貢献事業の一環として、一般の方へ向けてスタディツアーなどを行ったりしました。

その後、社会情報学部で「体験型の授業を必修にする」ということが決まり、「プロジェクト科目A-II」が始まったそうです。この授業は夏休み中に行われ、草津に泊って栗生楽泉園の入所者さんにインタビューなどを行い、関連する様々な場所を訪れた後、個人やグループ単位で学んだことを元にレポート作成や発表を行うというものです。希望者が多いため、受講できる人数を制限しており、今年度の予定人数は34人だそうです。



《プロジェクト科目になってから変わったこと》

西村先生 2年生はすごくまじめに授業を受けてくれます。3年のゼミ生から「2年生も一生懸命やってくれましたよ」と報告があります。さらにこの学びを深めたいという学生がゼミに入り、このフィールドワークのサポート側として活躍してもらっています。

《学生自身に主体的に考えてもらう》

西村先生 インタビューで事実を本人から聞くということも大事ですが、それは本当に一部にしか過ぎず、その話がすべてではないです。過去はどうなのか、語られていないことはどうなのか、そういった部分を学生自身に考えさせることもこの授業の目的のひとつとしています。グループワークで得られたことを元に、プレゼンをして共有もしています。中でも最も大事なテーマは“ハンセン病の歴史をどう継承していくか”ということ。10年後、20年後には療養所の入所者さんはいなくなり、療養所は閉鎖されるかもしれない。そこで統廃合しようという動きも出ています。そうなったときにハンセン病の問題を知らない人にどのように理解してもらい、歴史を継承していくべきなのか、を考えてもらうことを一番のテーマとしてかかっています。全体報告会という形でプレゼンし、のちに学生個人にレポートとして書いてもらっています。

《実践から学ぶことの重要性》

西村先生 入所者さんとのやり取りには“一期一会”という言葉があるようにこれは最初で最後かもしれない。聞かせてくださった方に「ちゃんと受けとめましたよ」ということが伝わるようにお礼状を書くことを毎年必ずやっているのです。

人と人の直接的なコミュニケーションもデジタル化が進んでいる現代だからこそ、手紙というアナログの形で感謝の気持ちを残すことが重要なのだとお話を伺って感じました。

その点から、この授業は『公務と法律』の授業ではありませんが、コミュニケーションという分野では多方面につながりがみられます。

《行政の目線だけでなく、》 《さまざまな目線から》

西村先生 『公務と法律』のディレクションを選択している人はやはり将来の進路が公務員の人が多いですね。この授業はそれらの学生に向けて、かつてあったハンセン病の差別問題、また、それに関する法律を行政法のテーマとして扱い、学びを深めるのが目的です。実際、将来公務員になって福祉の現場で働く人もいます。ビジネスやお金で解決できない問題がある、それを解決するには身をもって

体験することが大切です。でも目的は一つではなくて、他にもその地域の人たちがどういう風に療養所の患者さんと接していたのか、地域社会の中にもいろいろな歴史があるということを知ってほしいと思っています。今、療養所に入所している方々も高齢化が進んできています。入所者の方々がどういう気持ちで、どんなふうに療養所の中で暮らしてきたかということは、入所者さんたちが文章にしたり、証言したり、その映像が残っているので、様々な形で見聞きすることはできます。でも、直接行ってお話を聞ける貴重な機会を得られるのはあと5年くらいなのかな、と。

昨年フィールドワークに参加した学生が撮影した写真



①		②	③
④	⑤	⑥	
	⑦	⑧	⑨

- ① 温泉街の中心に位置する湯畑。七本の樋のうち、一番手前を流れる湯が栗生楽泉園まで引かれている。
- ② 所内児童の教育が行われた旧草津小・中学校分校の講堂。現在は物置になっている。
- ③ 「重監房」の跡地。建物の基礎のみが残り、部屋の狭さを窺わせる。
- ④ 栗生楽泉園内の入所者納骨堂。手前には、強制的に流産させられた胎児の供養碑がある。
- ⑤ かつてハンセン病の治療薬とされた、ダイフウシの種子から作られた油。
- ⑥ 「重監房資料館」で展示されている「特別病室」の再現模型。戦後解体されるまで、劣悪な環境下で多数の死者を出した。
- ⑦ 現在ハンセン病の一般的な治療法である多剤併用療法で用いられる特効薬。
- ⑧ 重監房の跡地からは、被収容者を閉じ込めるための南京錠が出土した。
- ⑨ 入居者の方を訪れた際、一緒に作った天ぷら。お菓子や飲み物をふるまっていたが、日々の暮らしの事を語ってくださった。

ハンセン病について知る人がいなくなってしまう前に、現代の若い世代にハンセン病について伝えていくというのも一つの目的だと伺いました。実際に、授業を実施して終わりではなく世間に伝える活動も行っている、ハンセン病の患者さんには後遺症が残っている方もいます。そういった人にも配慮して冊子を音読しCD化したり、学生主体で映画制作も行ったりしているそうです。

《現代に通用する過去事例》

現在、日本国内でのハンセン病の発病はほとんどいないようですが、事例が少ないハンセン病について学ぶのはなぜなのでしょう。

西村先生 かつてハンセン病では、伝染病に関する差別が問題になりました。皆さんが想像できる現代社会にある差別の問題にはどのようなものがありますか。例えば、エイズの患者さんたちに対して社会がどう向き合うべきか、外国人と日本人のハーフの子どもさんなどに対して「見た目が違うから」とか「日本語がちょっとつたない」という理由から学校でいじめにあうとか、それ以外にも障がいを持つ人に対する差別、精神病に対する差別、男女差別も残っています。そういう差別において昔の事例を学ぶことが、今の差別がどうして起こっているのか、それらをどうやって解決していけばいいのかということを考えるきっかけ、糸口になればよいと思っています。

《実際に自分で体験することの大切さ》

西村先生 日常生活の中では自分と似たような人に囲まれて生活をしていますよね。差別の問題を言われてもピンとこないでしょう。障がいがある人がいても視野に入ってこ

ないし、気づきません。そのような点で、この授業は日常から離れ、自分の見えなかった部分に気づくことのできる良い機会と言えます。

大学の普通の授業の内容は、知らないことを教えていれば目的としては成り立つと思います。しかしこの授業では単に“知らないことを知った”という抽象的な知識を得るだけでなく、実際に当事者に会いに行きます。実際に相手の方を目の前にすると「その人の役に立とう」とか、問題を解決しようという姿勢で接しなければ、相手が「自分たちはただの実験、観察の対象なの？」と思ってしまうかもしれません。研究する人や学生も、学校の中での勉強なら「ああそうだったんだ」と想像するだけで終わってしまいますが、苦しんだ人や現在苦しんでいる人などを目の前にしながら学ぶ時、私たちは、そうした人々の前をただ通りすぎることはできません。それが大学の施設の中で勉強することと、現場に行って当事者や被害者の方に会って学ぶということの一番の大きな違いですね。

《大学で学ぶことの本質とは》

最後に、先生はこの授業を通じて、本来大学で学ぶべきことは何なのか、その本質を語ってくださいました。

西村先生 公務員試験に合格するために勉強することも大事です。でも本当に大学で勉強すべきことは当事者が置かれた具体的な状況などを何か一つリアルに感じることです。進化が著しい時代、この学部だからデータの活用とかパソコンの利用に特化しているけれど、「本当にその人のことを助けよう、解決しよう」と思ったら、その現場に行かないと解決できない。だからこそアナログでの問題も決して忘れてはならないということもこの授業を通して社会情報学部の学生さんには念頭に置いてほしいと思っています。

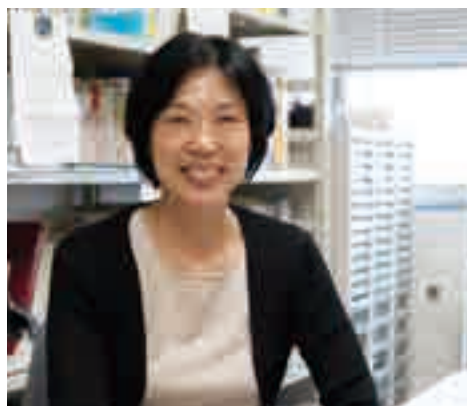
Check!



国立療養所栗生楽泉園ホームページ



群馬大学社会情報学部ホームページ



Profile

群馬大学社会情報学部 教授

西村 淑子 先生（法学博士） Nishimura Yoshiko

成城大学大学院法学研究科博士課程修了

【専門分野】 行政法、環境法

【研究テーマ】 アメリカの環境訴訟、行政訴訟の原告適格、福島原発事故による被害者の救済

【担当科目】 行政法Ⅰ・Ⅱ、環境法Ⅰ・Ⅱ、社会情報学プロジェクトA-II

輝く 群大生

課外活動で活躍する群大生をご紹介します

群馬大学国際センター公認 国際交流団体

Le Pont [ル・ポン] 代表

齋藤 健 Saitou Takeru



Profile

理工学部4年。群馬県立渋川高等学校出身。学部1年次より東南アジアの複数の国に留学経験あり。Le Pontの創設者。

—— Le Pontの活動を始めたきっかけを教えてください。

齋藤 学部1年生の時から、マレーシアへの留学やカンボジアでのビジネスインターンなどいろいろな活動を行っていたのですが、一緒に活動をしていた同世代の海外の学生の目標の高さや「自分は世の中をこうしていくんだ!」という彼らのマインドの強さや行動力に刺激を受けたことがはじまりです。

自分も挑戦してみたいことが以前からあったのですが、自分の周りでその「機会」や「場」がありませんでした。また、自分と同じようなマインドを持った群大生とも学年や学部を超えて交流したかったこともあり、挑戦したい学生が「つながる、集まる」団体を立ち上げることにしました。

偶然、同じ時期に国際センターの越智先生から「国際交流や国際協力にかかわる群馬大学の学生団体をつくらない?」と声がかかりました。ただ、越智先生からは団体の活動が「楽しい国際交流」だけにとどまらず、学生の（日本人学生でも

このコーナーの取材を担当した学生広報大使!

社会情報学部社会情報学科2年 浦山 あかりさん
[秋田県出身]



外国人留学生でも) 将来、世の中に貢献できる、あるいは社会をかえられる「力」の向上になるような活動、さらに、その結果が群馬大学や群馬の地域社会の活性化に結び付くような、そういう活動をしてほしいといわれ、挑戦したい学生が集まる「場」として活動することを目的とした、団体Le Pontをスタートさせました。

—— 団体名称 Le Pontの由来は?

齋藤 Le Pontはフランス語で「かけ橋」を意味しますが、Le Pontのメンバーには、まずは自分から周囲に1つずつ、橋をかけるような活動を通して、自分の世界を広げて欲しいという気持ちがありました。



Le Pont 第1回全体チームミーティング兼、新歓



タンデムチームリーダーと一緒に
—各チームリーダーとのミーティングを定期的に行っています



学生広報大使による取材中

橋は外に向かって、国籍や文化の違いを超えて、人と人がつながりますが、同じく、橋は内にも向かいます。Le Pontのメンバーには絶えず自分自身の発見もしてほしく、それが自己の成長にもつながると期待しています。

—— Le Pontではどのような活動をしていますか？

齋藤 Le Pontの活動はチーム制で行っています。4つのチームに分かれていて、「タンデムパートナー」「イベント」「アクションプラン」「広報・会計」チームがあります。タンデムパートナーチームは留学生来日のアシストや留学生と一緒に日本人学生の英語コミュニケーション向上のためのEnglish Cafeを企画・運営しています。イベントチームはさまざまな国際交流のイベントを企画して、特徴的なこととして、「deepな経験」ができるユニークな観光ツアーを留学生や外国人向けに企画して、それを群馬の地域活性化につなげています。アクションプランチームは留学生・日本人学生の協働セミナーを企画して、政府や自治体、企業との連携事業としています。広報・会計チームはLe Pontの活動はもちろん、群馬大学の国際交流の活動をSNSで学内・学外に発信したり、国際交流にかかわる外部資金に申請します。

“Le Pont (=フランス語でかけ橋)の夢は群馬発・オールグンマで取り組む国際協力の実践の場となること。そして、Le Pontメンバー一人ひとりの自己の成長にもつながる機会となること。”

—— Le Pontの活動としてこれから挑戦したいことを教えてください。

齋藤 Le Pontの活動はその特徴として政府・自治体・企業などのマルチアクターとパートナーシップを結んで国際交流や国際協力の活動を行うことにありますが、群馬発・オールグンマで取り組む国際協力の実践を目指しています。

Le Pontのキラリ★ここがすごい！

- Le Pontの活動は学内の国際交流にかかわる活動のほか、学外の活動を政府・企業・地方自治体などのマルチアクターとパートナーシップを結んで国際協力を行っています
- オールグンマで取り組む国際協力の実践を目指しています

Le Pont DATA >>>>>

全メンバー数：82名（2019年5月時点）

各学部メンバー内訳人数

教育学部	24名
社会情報学部	24名
医学部	17名
理工学部	17名

【問い合わせ先】

■ 齋藤 健（理工学部4年）
Le Pont代表
E-mail：lepont.gunma@gmail.com

■ 越智 貴子（国際センター）
E-mail：tochi@gunma-u.ac.jp
Tel：027-220-7506

Le Pont [ル・ポン]

留学生と身近に接して

- ① 留学生の受入サポート
- ② 留学生と一緒に英会話セッション
“English Cafe” を企画

チームリーダー
教育学部3年 堤 康太くん
教育学部3年 菅野 理子さん

タンデム
パートナー



国際交流のイベント企画

- ① 「Gunmaをdeepに知る」観光ツアー
の企画
- ② 多文化交流イベント “Global Café”
の企画

チームリーダー
理工学部2年 李 別奇くん
理工学部2年 久保 穂乃佳さん

イベント



マルチアクターとの連携

留学生・日本人学生協働セミナーの企画
(政府・自治体・企業との連携事業)

チームリーダー
理工学部2年 森下 拳多くん
教育学部1年 井出 鷹弥さん

アクション
プラン



群大国際交流の活動をPR

- ① SNSの運営、英語動画の作成
- ② 国際交流にかかわる外部資金の獲得

チームリーダー
教育学部4年 紫垣 沙耶さん

広報・会計



Le Pontの活動に興味がある方はこちらから▶▶



le pont 群馬大学

検索



Le Pont の主な活動



富岡市との連携事業 「外国人に選ばれる街づくり」プロジェクト

アクションチーム

富岡市との連携事業として実施される、外国人の移住と地域コミュニティの中に外国人住民が参加できる環境について調査と提案を行う。日本人学生、外国人留学生、地域住民（高校生、教育機関、医療保健機関等）が協働してアクションプランを考える。

イベントチーム

「Deep グンマ」観光ツアーの企画・運営

自分だけでは簡単に作れない、「deep な経験」ができるユニークな観光ツアーを外国人向けに企画し、群馬の地域活性化にも貢献。群馬の自治体や旅行会社も協力。



「外国人学生記者クラブ」の企画・運営

広報・会計チーム

外国人学生が記者となり、群馬の魅力を自分の国の言葉で発信。外国人留学生が自分の興味ある群馬の地域を訪問し、地域の人々と交流しつつ、Cool と思える地域の良さを世界へ発信する。

Le Pont 団体顧問よりコメント

群馬大学国際センター公認 国際交流団体 Le Pont（ル・ポン）の活動を通して、学内では日本人学生と外国人留学生の交流が活発化しており、キャンパスのグローバル化が図られています。また、Le Pont の活動はメンバー学生一人ひとりの自主性や積極性、実行力の向上を高めることも目的としていますが、Le Pont の活動を通して、グローバルな感覚と日本人としての感性や品格を持って、国際社会・地域社会に貢献できるよう期待しています。

国際センター 越智 貴子



アトリウムラウンジ

キャンパス紹介 {荒牧編}

学生広報大使企画

群馬大学に新設！アトリウムラウンジ

2018年11月7日（水）、荒牧キャンパス大学会館2階にオープンした「アトリウムラウンジ」は、群馬大学の学生や教職員が自由に利用できるラウンジで、平日7時から20時まで使用可能です。16名分のソファ、机が20台、椅子が60脚あり、多くの学生、教職員が使用可能なスペースになっています。もちろん、エアコンも完備されています。このラウンジは、共用スペースですが学校に申請すれば行事やイベントを行うこともできます。また、平日は、ここでお昼のお弁当や学食を食べる学生や、休み時間にコーヒーなどを飲みながら自習する学生もいて、群馬大学生の中でもこのアトリウムラウンジは徐々に浸透しつつあります。実際、この記事を書かせていただくにあたって、担当の職員の方との打ち合わせをこのアトリウムラウンジで行いました。

これからも今までのように多くの学生に様々な目的で利用していただき、アトリウムラウンジをより活気溢れる場所にしてほしいと思います。さらに、これからはより大きな行事やイベントの開催場所としても、より多くの学生、教職員に利用していただきたいです。

このコーナーの取材を担当した
学生広報大使！

医学部保健学科2年
筒井 美帆さん
[福島県出身]



英字新聞も
時々おいてます

コーヒー等の
ドリンクだけでなく、
スープもありますよ

フタもあります！

出来上がり！



オープニングセレモニー



セミナーや説明会などに使われる様子



左:センター（前景）/ 右上:シミュレーション室 / 右下:管制・遠隔操縦設備室1

注目施設！「^{ク ラ ン ツ}CRANTS」

2018年3月に施設完成、同年4月より本格始動した、新施設「CRANTS」について紹介していきます。

このCRANTSは、次世代モビリティ社会実践研究センター（Center for Research on Adoption of NextGen Transportation）の略です。この施設は、完全自律型自動運転車両をはじめとした次世代の交通手段について研究・開発を行う場です。また、研究・開発のみならず、そのシステムを社会で実践するために、社会システムの研究・実証・普及を目的としています。

この施設には、車両整備開発室、管制・遠隔操縦設備室、シミュレーション室など、開発に必要な多くの設備のほか、共同研究を行う企業の方用の研究室も備わっています。また、国内最大級の約6000平方メートルの専用試験路が併設されており、様々な実験を行うことができます。

現在、この設備を利用して様々な研究が行われていますが、最も力をいれているものが完全自律型自動運転車両の研究です。この研究により、自動車での移動中に自由に時間が使えることはもちろんですが、運転者不足が深刻化しているバスやトラック業界、過疎や高齢化が進む地域にとって問題解決の1つの手段となることでしょう。平成30年12月から平成31年3月まで、営業バスによる実証実験が行われました。これは、全国初の取り組みです。このような自動運転の実証実験は全国さまざまな場所で行われており、その中で、国土交通省などの国の機関や地方自治体、交通事業者の方の視察に加え、実際に一般市民の方にも自動運転車両にご乗車いただいています。

自動運転の実現には、技術的にも、また維持管理・利用者の受容性の観点から社会的にも難しいことではありますが、今後、限定された地域専用の自動運転技術の研究を促進させ、2020年を目安として完全自律型自動運転車両の社会実装を目指していきます。



竣工式の様子



管制・遠隔操縦設備室2

2018年12月～2019年3月まで実証実験で使われた
中央前橋駅～前橋駅間シャトルバス



竣工式典
デモ走行

群馬大学基金の概要

群馬大学では学生に対する支援、教育研究の質の向上および社会貢献活動の充実等を図ることを目的とし、「群馬大学基金」による寄附金を募っています。皆様からお預かりした寄附金は、「学生の修学支援に資する事業」「大学運営全般に係る事業」「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」の3つの分野で活用されます。



群馬大学基金ホームページはコチラ▶

2018年度の活用事例

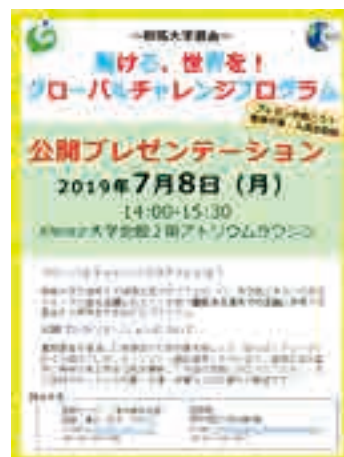
2018年度は、「学生の修学支援に資する事業」において、海外留学に係る費用の一部補助及び経済的困窮学生に対する修学支援金の給付。「大学運営全般に係る事業」において、本学教育学部附属幼稚園の園庭等教育環境の整備。「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」において、2016年度から継続している『重粒子線マイクロサージェリーの臨床応用に対する研究開発』を行いました。

線治療の普及・発展に資する事業」において、2016年度から継続している『重粒子線マイクロサージェリーの臨床応用に対する研究開発』を行いました。

2019年度取り組み

2019年度は、「学生の修学支援に資する事業」において、海外留学支援及び経済的困窮学生で意欲と能力ある学生に対し修学支援金を給付。また、「大学運営全般に係る事業」における新たな取り組みとして、『グローバルチャレンジプログラム（写真参照）』という取り組みを開始しました。これは、群馬大学の国際展開を担う国際交流リーダーの育成、群馬大学海外留学の活性化、群馬大学のブランド力の向上を目的としたプロジェクトで、学生個人（団体）が自由に企画したユニークかつキラリと光る海外での「国際交流」あるいは研修（研究）に対して奨学金を支給します。2019年7月8日（月）に行われた最終選考会（公開プレゼンテーション形式で発表）では、意欲ある学生たちが海外で成し遂げたい企画をプレゼンテーションし、個人2名、1団体の学生たちが見事奨学金を獲得しました。その他、「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」では、患者さんへ安全かつ安心、そして質の良い治療を提供するために、現在稼働中の重粒子線治療装置制御システムを更新する予定です。

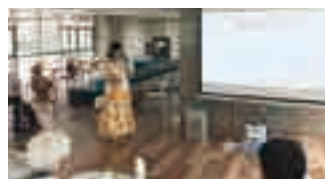
ンテーションし、個人2名、1団体の学生たちが見事奨学金を獲得しました。その他、「重粒子線治療の普及・発展に資する事業」では、患者さんへ安全かつ安心、そして質の良い治療を提供するために、現在稼働中の重粒子線治療装置制御システムを更新する予定です。



公開プレゼンテーションチラシ



最終選考に残った学生たち



プレゼンの様子



プレゼンの様子



順番を待つ学生たち



授賞式後の集合写真

寄附状況報告（2019年6月30日現在）

● 寄附金額

学生の修学支援に資する事業	32,423 千円
大学運営全般に係る事業	52,948 千円
重粒子線治療の普及・発展に資する事業（重粒子線治療基金含む）	748,820 千円

● 寄附者の内訳

※ 重粒子線治療基金に寄附いただいた分は含まれておりません。

同窓生・同窓生の家族	398 件
在学生・在学生の家族	260 件
退職者	18 件
在職教職員	30 件
一般の方	1,174 件
法人	201 件
合計	2,081 件



サンディエゴ州立大学 (SDSU) にて

基金が拓く 未来

交換留学
[サンディエゴ州立大学]
教育学部英語専攻 4年
田口 裕亮さん

寄附金を活用した学生からのレポートをご紹介します

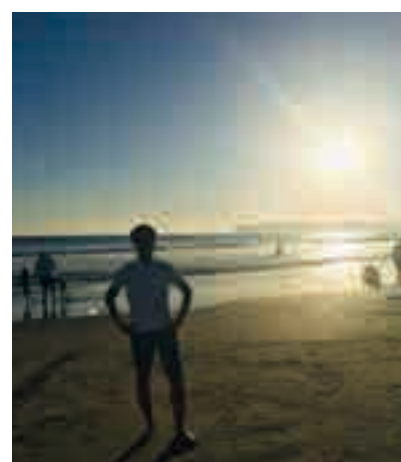
私 は、2019年1月よりアメリカのサンディエゴ州立大学 (SDSU) へ1年間の交換留学をしています。早いことで、こちらに派遣されて3か月が経ちました。この留学は語学学校へ通うのではなく、現地の学生と同様に大学へ通うということで、授業やテストをこなすことは容易ではありません。これまでに幾度となく悔しい思いをしてきました。また、授業は、専攻である言語学の講義をとるほか、TAとして日本語の授業にも参加しています。自分の母国語が学ばれている光景は、とても面白いです。私は卒業後は英語の教員になる予定のため、この経験は必ず活かせると思っています。肝心な

英語の能力ですが、どのくらい伸びているのかはわかりません。ただ、毎日自分の英語を意識して生活しないと、あまり変わらないのだろうなと思っています。毎日、自分の生活を見直し、1日1日を充実させることで、少しでも意義のある留学にしようと努めています。このように、苦しい状況と向き合って生活していることが何よりも良い経験になるのだろうと思っています。群馬大学基金の寄付者の方々には、このような貴重な経験をするためにとてもサポートしていただき、大変ありがとうございます。悔いの残らないよう、残りの留学生活を送りたいと思います。

(2019年4月執筆)

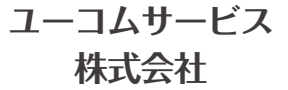


Old Town にて



Coronado Beach にて

2018年度 群馬大学にご寄附をいただいた主な企業様

株式会社アイ・ディー・エー 様 	植木プラスチック株式会社 様  植木プラスチック株式会社 弊社は真空圧空成形の技術の蓄積により安定成長してきました。この業界の日本一を目指し研究開発を続けています。将来を担う学生の皆さん！是非ものづくりの現場を見学に来てください。	王子製鉄株式会社 様  王子製鉄株式会社 就職の参考には是非、一度工場を見学してみてください。	株式会社キンセイ産業 様  株式会社キンセイ産業 より多くの学生の皆さんが充実した学生生活を送られることを願っております。
群馬大学生活協同組合 様  勉学研究やキャンパスライフの充実に寄与します。	群馬トヨペット株式会社 様  今日、多くの業界が大変革の時代にあり、自動車業界もその渦中にあります。同じ群馬県の仲間として、出来ることから共に頑張っていきたい！	河本工業株式会社 様  若い人が安心して楽しく仕事ができる総合建設会社を目指しています。	寿運輸倉庫株式会社 様 
寿倉庫株式会社 様 	小林工業株式会社 様  群大生の皆さんへ 卒業後は地元群馬への就職を期待します！	株式会社小林ハウジング 様  マンション・アパートをご紹介します！	株式会社サンワ 様  弊社は、エネルギー事業の販売を中心に、多岐にわたり事業展開をしております。これからの時代を担う皆さんの熱く若い力に期待しています。
株式会社シオ 様 	システムセイコー株式会社 様  一流の技術を発揮し社会に貢献しよう！	上武印刷株式会社 様  群馬大学生として誇りを持って、それぞれの場でご活躍ください。	伸和化工株式会社 様 
ソネット株式会社 様  コミュニケーションスローガン「ありがとうをずっと一緒に」	ちよだ株式会社 様  今の学生生活を悔いなく、精一杯過ごしてください。	株式会社鐵建 様  弊社は、建物の鉄骨を製造しております。就職の参考には是非一度見学してみてください。	一般財団法人 同愛会 様  群大生の皆さんの修学活動を支援します。
東京パーツ工業株式会社 様  弊社は、車載関連部品の製造会社です。生産は、海外工場が主体と成っており、海外にて働くことに興味のある方も是非一度見学してみてください。	株式会社原田 様  PÂTISSERIE CREATIONS GATEAU FESTA HARADA 将来の日本を担う、優秀な人材になってください。	藤田エンジニアリング株式会社 様  藤田エンジニアリング株式会社 Step into the Future 未来を担う皆さんの成長を期待しています。	星野総合商事株式会社 様  明るく希望に溢れる世界の創造を期待します。
宮下工業株式会社 様  私たちは様々なものをつくってきた「ものづくり」の建設会社です。就職の参考に是非一度見学してみてください。	ユーコムサービス株式会社 様  保険代理店のユーコムサービスです。みなさんの未来を応援しています！	株式会社ユタカ製作所 様  株式会社ユタカ製作所 地域・日本の発展への貢献を応援しています。	理研鍛造株式会社 様  新しい発想とチャレンジ精神で自らに革新を！

- 株式会社赤城国際カントリークラブ 様
- 株式会社アクティブ 様
- 足利ガス株式会社 様
- 池下工業株式会社 様
- 株式会社イシイ設備工業 様
- 石川建設株式会社 様
- 伊勢崎ガス株式会社 様
- 医療法人伊藤内科医院 様
- 鶴川興業株式会社 様
- 大橋サイン株式会社 様
- 小野里工業株式会社 様

- 有限会社柏屋 様
- 菊地歯車株式会社 様
- 株式会社キンケン 様
- 株式会社クライム 様
- グンダイ株式会社 様
- 群馬県警察学校初任科 第93期生会 様
- 群馬トヨタ自動車株式会社 様
- 株式会社群馬フレーベル 様
- 小池化学株式会社 赤城工場 様
- 高信化学株式会社 様
- 株式会社小島鐵工所 様

- 株式会社小間工業 様
- 株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーション 様
- 株式会社サンコー電子 様
- 司法書士法人 オフィス東 Registration 様
- 株式会社翔栄 様
- 株式会社鈴木機械 様
- セコム上信越株式会社 様
- 株式会社総合 PR 様
- 医療法人大翠会 様
- 有限会社タキザワ 様

- 株式会社田村屋 様
- 塚本建設株式会社 様
- 株式会社登利平 様
- 株式会社西建 様
- 株式会社日本キャンパック 様
- 株式会社ヨシカワ 様
- 株式会社吉田鉄工所 様
- 株式会社レストランスワン 様



今回の表紙

群馬大学写真部のみなさん

今号の学生広報大使企画コーナー（イマドキ授業、輝く群大生、キャンパス紹介）に写真を提供



編集後記

今年の梅雨明けは遅かったですね。日照不足による農作物等への悪影響があったのは残念ですが、気温が例年より低かったため快適に過ごせたと思います。さて、GU'DAYは今号より大幅リニューアルしました。皆様お気づきだったでしょうか？編集にあたり、学生広報大使編集チームメンバー、印刷会社さん、そして、快く広報誌への掲載を承諾し取材や校正にご協力いただいた多くの方々、本当にありがとうございました。次回以降も、広報誌を通じた新たな出会いがあることを楽しみに、制作に励んでまいります。

[執筆：広報係 K]



読者アンケート

2019年10月31日（木）までにご意見（ご感想）をいただいた方の中から抽選で2名様に、群馬大学オリジナルグッズより「星野富弘氏デザインのクリアファイル」をプレゼントいたします。

※ プレゼントをご希望の場合は、メール本文に必ず、住所・氏名をご記入ください。

◆ 広報誌に対するご意見、ご感想はコチラ

E-mail : s-public@jimu.gunma-u.ac.jp



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学広報誌「グッデイ」

GU'DAY

- 発行元：国立大学法人群馬大学 広報本部
- 発行日：2019年8月
- TEL：027-220-7010,7011
- E-mail：s-public@jimu.gunma-u.ac.jp
- URL：<http://www.gunma-u.ac.jp/>

Copyright(C) 2019 Gunma University All rights Reserved